

『颯々』は、富士・東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、

地域教育の「横の連携」と「縦の接続」

を目指す富士・東部教育事務所が発行する情報紙です。1年に6回程度の発行を予定しています。

第25回 山梨県南都留地域教育フォーラム

「子どもたちの教育は地域全体で担う」

10月28日（金）に、富士吉田市民会館において、令和4年度山梨県南都留地域教育フォーラムが開催されました。今年度で25回目の開催です。一昨年は書面開催、昨年はYouTube 配信型開催でしたが、今年度はコロナ感染症対策をとりつつ参集型での開催となりました。全体会と2つの分科会を実施し、5つの実践提案とパネルディスカッションを行いました。

研究会①では、「幼保小連携・行政と地域連携」のテーマで、忍野幼稚園とNPO 法人にしいるのスイミーからの実践提案がありました。幼年期から小学校の子どもたちの教育環境に焦点をあてた実践や、学童や放課後子ども教室の活動から、地域の方で子どもたちの学びの充実を組織的に展開する事例の紹介が行われました。

研究会②では、「行政・外郭団体と学校の連携」のテーマで、富士吉田市立教育研修所、富士山科学研究所、NPO 法人ぐんないやからの実践提案がありました。地域・学校・行政が連携し、魅力的なふるさとを創る取り組みや、学校教育への支援、地域コミュニティの潜在能力を生かす取り組み、地域を愛する人材の育成をめざし、SDGs の観点も取り入れ、持続可能な取り組みにしていこうと試みる団体の活動の紹介が行われました。

その後のパネルディスカッションでは、会場からの質問も含め、活発な意見交換が行われました。

最後の講演会では、健康科学大学教授 鈴木真吾 氏をお招きして「子どもの多様性と社会との折り合いを見つけ 支える」と題してご講演いただきました。「安心・安全でこそ多様性は生き生きとする。率直に発言したり、懸念や疑問やアイデアを話したりする対人関係のリスクを全員が安心して取れる環境作りが大切だ」とおっしゃっていました。



第3回 富士吉田市幼保小連携担当者会議

10月19日（水）に、南都留教育会館にて、富士吉田市内の全ての幼稚園・保育園・小学校の担当者が集まり、連携担当者会議が開かれました。今回は今年度3回目。まず初めに、やまなし幼児教育センターの主幹・指導主事 山下春美先生から「幼保小の架け橋プログラム及び最新動向について」の演題で講演をしていただき、その後グループ討議を行いました。

山下先生は、「園長・校長を含む幼保小の先生が、お互いに意見交換や合同の研究の機会を設け、義務教育開始前後の幼児期の終わりまでに育てて欲しい姿を共有する連携を図る必要がある。」と、強調されていました。また、グループ討議においては、3つのグループに分かれ、「コロナ禍の中の保育・教育」「幼保小のなめらかな接続について」「研修を受けての情報交換」などについて、活発な意見交換を行っていました。

小一プロブレムの解消に向けて、幼保小の先生方の連携が着実に進みつつあります。



丹波山村 保小中合同枝豆収穫体験

10月5日（水）に、丹波小学校にて、丹波山村保育所（相生有得所長）・丹波小学校（小山博史校長）・丹波中学校（加々美竜也校長）合同で枝豆の収穫が行われました。当日は残念ながら雨のため畑で行うことができず、体育館にて事前に抜いてきた枝からの収穫になりました。

大豆の種から加工までの過程を知り、栽培することの大切さや生命の大切さを感じ得ることを目的に、丹波山村では保小中合同で大豆栽培、さらにその大豆を使用した味噌造りを毎年行っています。6月にポットに大豆を播き、その後成長した苗を畑に植え替えました。そして今回は、大豆になる前の枝豆を収穫しました。今後は11月の大豆収穫、12月の大豆脱穀、2月の味噌造りと続きます。1年間かけて味噌を発酵させ、出来上がった味噌は給食にも使用します。

保育園児から中学生までの子どもたちが混合で3つの班に分かれ、ブルーシートの上に置かれた枝の束から枝豆を収穫していきました。歳上の子どもたちが、枝から豆をとる方法などを教えながら、歳下の子どもたちの面倒を非常によく見ていました。みんなでわいわいと楽しみながら枝豆を収穫している姿を見ると、小一プロブレムや中一ギャップという言葉は無縁のように感じました。収穫後はみんなで枝豆と大豆の違いを勉強しました。枝豆は野菜で大豆は豆類に分類されることやそれぞれの栄養面について、知らないことがたくさんありました。

講師の先生は地域住民の方で、地域人材を生かした取り組みにもなっています。保小中の子ども達の交流や地域の方々との交流など、様々な形で交流が図られる収穫体験となりました。



明日の風 アスリート実技講習会

今後の予定

2月18日(土)

3月4日(土)

9月23日(金)秋分の日、大月市勤労青年センターにて、第3回アスリート実技講習会が実施されました。本来ならば、大月市営陸上競技場にての開催でありましたが、当日はあいにくの雨。場所を勤労青年センター体育館に移しての実施となりました。

約40名の北都留地区の子どもたちが参加し、ウォーミングアップの後グループに分かれ、立ち幅跳び・5段跳び・反復横跳び・30mダッシュ・上体起こしの5種目に挑戦しました。指導役として、都留文科大学陸上競技部員5名も参加してくれました。大学生アスリートのデモンストレーションに大きな歓声が沸く中、すべての子どもたちが自己ベストを目指して頑張りました。

最後は恒例の交流リレー。狭い体育館だからこそある難しさの中、この日一番の歓声が沸いていました。



夏&秋 ジュニアリーダー・アウトドア体験

8月4日(木)に、西湖・精進湖にて、夏のジュニアリーダー・アウトドア体験が開催されました。南都留8市町村から公募で集まった小学生38人の参加による行事です。今年度は、上九一色カヌークラブの協力のもと、南都留地区社会教育担当者会主催により行われました。

西湖のTAMAYOリゾートにて「リアル宝探し」、精進湖ではカヌー体験が行われました。リアル宝探しでは参加者が8つのグループに分かれ、知恵と行動力を駆使して西湖周辺に隠された宝を探し当てます。大変難しいクイズ形式の宝探しで、いまだに全問正解者はいないといわれています。カヌー体験では、最初は不安そうな子どもたちも、慣れてくるとスイスイと自在にカヌーを操ります。最後は班ごとにモーターボートで精進湖遊覧のおまけつき。各市町村から集まった子どもたちが、仲良く時を忘れて楽しんだ行事となりました。

また、10月15日(土)には、秋のジュニアリーダー・アウトドア体験が開催されました。

午前中は鳴沢村フォレストアドベンチャー・フジにてアスレチック体験。8つの班を構成し、ちょっとスリリングなアスレチックをお互いに声をかけ合いながらチャレンジしました。

午後からは大嵐小体育館でポッチャ大会。勝負に勝っても負けてもチームで頭脳戦を繰り広げ、新しい仲間たちとともに楽しみ尽くした一日となりました。

来年度も開催予定です。学校を通して開催通知が配布されます。多くの子どもたちの参加をお待ちしています。



明日の風 伊藤知治教士八段剣道教室

北都留地域教育推進連絡協議会（「地域教育 明日の風」会長：小林信保大月市長）では、10月23日（日）に、大月短期大学体育館にて、第18回伊藤知治教士八段剣道教室を開催しました。参集型での開催は3年振りとなりました。大月市と上野原市を中心とした約20名の子どもたちが集まり、郷土出身の大先輩・伊藤知治教士八段より、剣道の技だけでなく人生において大切なことを学びました。

稽古では、竹刀の握り方や立ち方、構え方の基本の大切さを強調するとともに、しっかりと指導者の目を見て話を聞き、指導されたことを実行しようとする気持ちが大切だとおっしゃっていました。また、人生における「5つの戒め」（①ウソをつかない ②やりっぱなしにしない ③怠けない ④わがままをいわない ⑤人に迷惑をかけない）を子どもたちに対するメッセージとして話されました。

指導を受けた子どもたちだけでなく、我々大人にも非常に勉強となった1日でした。



吉田高校教員による出前授業 at 下吉田中学校

10月7日（金）に、下吉田中学校（堀内一義校長）にて、吉田高校教員5名（国語・数学・英語・物理・世界史）による出前授業が行われました。3年生5クラスを対象に行われましたが、どのクラスの生徒達も非常に反応が良く、吉田高校の先生方もびっくりしていました。

3組では藤原剛先生による英語の授業が行われました。英語による自己紹介から始まって、ある元スポーツ選手をトピックにしたリスニング中心の授業でした。音声CDを何度も繰り返して流したり、フレーズごとに流したり、なんとか生徒達が聞き取れるように工夫していました。生徒達が答え合わせのために話し合わせる時間もしっかり確保。生徒達は、「“word”って言った？ “world”って言った？どっち？」など、聞き取りにくい単語をお互いに確認しあっていました。授業の最後には、「なぜ英語を勉強するのか？」について生徒達に語りかけていました。生徒達にとっては、普段と違った刺激が得られる授業だったと思います。



富士吉田市

ふるさと発見ワークショップ

9月16日(金)に、富士吉田市内の中学校4校にて、「富士吉田市ふるさと発見ワークショップ」が開催されました。進路決定前の中学校3年生が、地元の仕事や地元に関わる仕事で活躍している若者から話を聞くことで、富士吉田市と関わりながら働く選択肢について学び、生徒のキャリア発達をはかることを目的としています。当日は合計16職種にわたる方々が中学3年生の生徒達に「私にとっての仕事とは?」「みんなへのメッセージ」などのテーマを中心に語りかけてくれました。

普段生徒達が接する大人は学校の先生か親など非常に限られています。そのため、生徒達の地元の仕事に関する知識は決して深いものとはいえません。今回のような機会は、地元どんな仕事があるのか、どんな気持ちで働いているのかを知る良い機会でした。生徒達は講師の方々の話にうなずきながら真剣に耳を傾け、最後に勤務形態についての質問などをたくさんしていました。

「とりあえずやってみよう」この言葉が多く講師の方から聞こえました。進路決定をする時期が近づき、いろいろと悩むこともあると思いますが、この一言が生徒達の背中を押してくれることを信じています。



ひばりが丘高校&都留高校 定時制通信制高校教育祭

10月12日(水)に、YCC 県民文化ホールにて、第70回定時制通信制高校教育祭が開催されました。県下の定時制・通信制で学ぶ生徒約600人が参加し、学校生活での苦悩や将来の夢などを語る生活体験発表と、授業などで制作した絵画や切り絵、書道などの作品を展示する文化作品展を行いました。

生活体験発表において、ひばりが丘高校代表生徒は、「以前は人とのコミュニケーションが苦手で、ひとりで問題を解決しようとして、かえって周囲にトラブルを引き起こすこともあった。だけど高校に入学して、つらかった時に話を聞いてくれた周囲の人のおかげで、困ったらすぐ人に話せるようになった。その結果、人と接することの意識を変えられるようになった。今後は、私自身がだれかの支えになりたい。」と、将来への夢を語っていました。

都留高校代表生徒は、「入学式の日、新入生は自分一人だけだと知った。最初は不安でどうしようもなかったが、先輩達が優しく話しかけてくれて学校が楽しくなった。卒業式も一人だが、今はもう不安はない。その日まで、自分が後輩達を支え続けたい。」と、入学してからの日々を振り返っていました。

また、文化作品展では、ひばりが丘高校の渡辺彩楓さんが切り絵「蝶」で最優秀賞を受賞しました。蝶と花を見事にミックスさせた非常にきれいな作品でした。



都留高校・やまびこ支援学校 リモート交流会

10月24日（月）に、都留高校とやまびこ支援学校の交流会が昨年に引き続きリモートで実施されました。都留高校は合計12名のボランティア同好会と生徒会本部の生徒達、やまびこ支援学校は高等部の生徒達8名が参加しました。

自己紹介の後、お互いに質問をしたり、ジェスチャーゲームを行いました。最初はお互いに緊張していましたが、やまびこ支援学校の生徒がダンスを披露したり、ジェスチャーゲームで正解がでるたびに大きな拍手や歓声上がり、最後はとても盛り上がりました。

「画面越しではあったけれども、いろいろなゲームができて楽しかった」「はじめての交流会だったが、ダンスやジェスチャーゲームであっという間に時間が過ぎました」などの感想が述べられました。



「よのなか科」 at 富士河口湖高校

9月15日（木）に、富士河口湖高校にて、教育改革実践家である藤原和博氏による「よのなか科」の特別講義が2年生42名の生徒を対象に行われました。「よのなか科」の講義では、正解のないとされる課題に対し、自分の意見が言えるようにし、これからの時代を生きるのに必要とされる「情報編集力」を鍛えます。今回の講義では、「ハンバーガー店が商売繁盛する方程式を導く」をテーマに、4～5名でグループを形成し、流行る店と流行らない店の特徴を分析し、集客力を高める方法を検討し、グループ内で出された意見を発表する形式で行われました。また、藤原氏は2022年山梨県知事特別顧問に就任されており、当日は長崎幸太郎山梨県知事も生徒と一緒に講義を受けられました。



「よのなか科」のルールには「静かにしない（黙らない）」「カンニング歓迎」というものがあり、生徒達は終始お互いにコミュニケーションを取りながら、他人のアイデアを使って更に良い自分のアイデアを生み出すという作業を続けていました。また、藤原氏は「数学的な思考法」の重要性を強調しており、講義に中でも協働作業を通して、物事を数学的・論理的に考えて行くように導いていました。

講義終了後も多くの生徒達が質問に訪れ、新しいものの見方を身につけようとする生徒達の関心の強さがうかがわれました。



高大連携事業 at 都留興讓館高校

10月4日(火)に、都留興讓館高校(小佐野景賀校長)にて、高大連携事業の一環として、健康科学大学看護学部看護学科の田中深雪先生による保育の授業が行われました。普通科の1年生33名を対象に、「親になること」をテーマにした授業でした。

まず始めに、命のはじまりから赤ちゃんの成長についての説明が映像や模型を使って行われました。生徒達は、初めて見る映像にびっくりした様子で見入っていました。その後、「妊婦ジャケット着用体験」と「赤ちゃん抱っこ体験」を行いました。「妊婦ジャケット着用体験」では、第一声は「重いなあ」の一言。さらに、「座ったり立ったりする時に負担がかかる」「腰が痛くなりそう」「足元の物を取るときに難しい」などの感想が聞かれました。「赤ちゃん抱っこ体験」では、赤ちゃんの首のやわらかさにびっくり。すわっていない首に注意しながら、慣れない手つきで赤ちゃんの模型を抱っこしていました。二つの体験を通して、母親の大変さを実感しました。都留興讓館高校家庭科の堀内先生は、男子生徒に対して、将来結婚相手がそうになったら夫としてどのような行動を取るべきなのかを考えさせていました。生徒達の将来とつながる非常に貴重な体験でした。

田中先生は助産師としても活躍されている方で、高校生の生徒達にとっては実社会で実際に活動している方の話を聴き、自分の視野を広げる良い機会になったと思います。



銘楽堂 「富士の麓で聴くベートーヴェンコンサート」

7月30日(土)に、地域教育「明日の風」芸術文化振興事業の一環として、銘楽堂にて「富士の麓で聴くベートーヴェンコンサート」が開催されました。当日は北都留地区の小中学校の先生方あるいはその家族の方々26名が、ピアノ・ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロの四重奏に聴き入りました。

ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロの弦楽の奏者の方々は、3名ともNHK交響楽団のメンバーの方々であり、一人ひとりの高度な技術と巧みな掛け合いによって紡ぎ出される音楽は、ピアノ奏者の望月恭子氏と合わせて、たった4人で演奏しているとは思えないほどの充実した響きでした。



プログラム

ピアノ四重奏曲 第3番 八長調 WoO36-3

- I. Allegro vivace
- II. Adagio con espressione
- III. Rondo : Allegro

弦楽三重奏曲 二長調 op.9-2 より



山梨ことぶき観学院

南北都留教室舞台発表会



10月14日(金)に、上野原もみじホールにて、山梨ことぶき観学院南北都留教室舞台発表会が行われました。本来であれば、10月18日(火)に、YCC 県民文化ホールにてことぶき観学院祭が行われる予定でしたが、コロナ禍により中止。せっかく練習してきたものをなんとかして発表したいという生徒の方々の熱い思いから、南北都留教室のみでの発表会となりました。

当日は、生徒の方々だけでなく、ことぶき観学院卒業生や友人の方々もたくさん集まったなかで、南都留教室が「踊り：安来節・ソーラン節」、北都留教室が「寸劇と踊り：猿橋わいわい騒動記」「寸劇とダンス：晶子とレッツダンシング!」を発表しました。衣装も凝っており、セーラー服や学ラン、ちょんまげ姿の方もおり、音楽に合わせての見事な踊りやダンス、お笑いありの寸劇を披露してくれました。最高齢の方は85歳!まさに人生100年時代を体現していました。



明日の風 「心と体 ヘルスアップ教室」

8月20日(土)上野原市文化ホールで「心と体ヘルスアップ教室」を開催しました。これは地域教育「明日の風」で今年度から新しい事業として行ったものです。市民団体「リズムオブラブ」主宰で、健康安全郷育アドバイザー・防災士・やまなし大使でもある渡辺光美先生を講師にお招きし、上野原市内の幼稚園・保育園・こども園の園児さんとその保護者の方を対象に、「かけがえのない大切な命を自分で守る心と体づくり」をテーマに親子で体を動かしました。元気いっばいの光美先生のご指導の下、親子でスキンシップを深めるリズム遊びから始まり、不審者への対応に必要な体の動きを「イカのおすし体操」を通して体験したり、不審者との距離の取り方を教えていただいたりしました。親子で一緒に学ぶことにより、家庭で振り返り、親子で防犯に取り組むことができます。参加人数は少なかったのですが、命を守る上で大切なことを親子で楽しく学ぶことができました。最後に、ここで学んだことをお友だちや家族の方に広めてほしいという願いを込めて、「キッズアンバサダー任命書」を参加者に贈呈して終了しました。とても良い取り組みなので、来年はもっと多くの親子に参加してもらえるようにしていきたいと思います。



【 カラー版は、富士・東部教育事務所のHPからご覧いただけます。

URL : <http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ft/jouhoushibackn.html> 】

地域の皆様のご支援ご協力を得ながら、実りある実践となるよう努めてまいります。各事業についてご意見ご要望、地域連携活動の情報がありましたら、地域教育支援スタッフまでご連絡ください。

※連絡先 富士・東部教育事務所 教育支援スタッフ 0554-45-7841